

みんなのおた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



「ありがとう」

「ありがとう」という言葉をもっとも多く耳にしたのは、東日本大震災があったときでした。市、県、国から物資の供給や飲み水の給水を受けるたびに、何回も何回も「ありがとう」を聞き返しました。家を流され、家財道

具を流されて、そして家族、親戚を亡くし途方に暮れているときでしたので、余計にありがたさを感じたのかもしれません。

え、物をいただいたとき、または感謝に対しての「ありがとう」、そして親切に對しての「ありがとう」、ほかにもたくさんあると思います。私も震災の津波で弟夫婦を亡くしました。最後の別れするとき、棺にすがり何度も「ありがとう」を繰り返して涙しました。このときの「ありがとう」は、いっただいごんな意味を持った「ありがとう」だったのでしょうか。弟夫婦に對してのこれまでの親切に對しての感謝の気持ちだったのでしょうか。

(イチシミン)

文化財たんぼ(81)

防災集団移転と遺跡

文化財保護委員
茂木好光

石巻市給分浜地区の高台移転のため、平成24・25年に中沢遺跡の発掘調査が行われました。遺跡は、牡鹿半島の南西部に位置し、石巻湾を見下ろす標高約27mの東西に細長い丘陵上にあります。縄文時代前期前葉から中葉(上川名Ⅱ式、大木4式)に集落が営まれ、計画的な建物の配置が見られました。中央広場の周縁部に、長軸約23mの大型建物跡や竪穴住居跡・炉跡等が複数確認され、谷間には多数の土器、石器、土偶、玦状耳

飾り等が出土した遺物包含層がありました。また、遺物包含層には、約六千年以前に十和田火山から噴出した火山灰(十和田中振テフラ)の堆積が確認されました。女川町でも、鷲神の内山遺跡(縄文時代中期、後期初)、石浜の崎山遺跡(縄文時代前期後半・後期前半、奈良時代)が発掘されています。集団移転に伴う迅速な発掘調



▲中沢遺跡の大型建物跡

査と記録保存が求められます。
参考文献
平成25年度宮城県遺跡調査
成果発表会発表要旨
宮城県考古学会

キラッとパチリ



さ は ら け ん い ち ろ う
佐原賢一郎さん 33歳
集団移転推進課
し ず お か こ さ い
静岡県湖西市から派遣

生活再建の第一歩をお手伝い

石巻市には、復興支援のために全国の自治体、企業等から訪れている長期派遣職員の皆さんが202人(1月1日現在)います。今

回は復興事業部集団移転推進課の佐原賢一郎さんを紹介します。

※ 佐原さんは被災地のマ

ンパワー不足を知り、少しでも経験を役立てたいと平成25年4月1日に着任しました。現在、防災集団移転促進事業の移転先用地所得を担当し、地権者との交渉や調整を進めています。

4年前を振り

返り、「東日本大震災時は静岡県から支援に行きたいと思っていました。見守ることしかできませんでした」と語ります。

派遣職員として活動する石巻市の印象については、

「地権者の方とお話する機会が多いのですが、皆さんとても優しく、事業に理解を示してくれます。支援をする自分が逆に皆さんから元気をいただいています」と笑顔をみせていました。

未来の石巻市に對し、佐原さんは「被災前より活気に満ちたまちになってほしい」と話し、「そのためにも一日でも早く生活再建の基礎である住まいの再建ができるように努力したい」と意欲をみせていました。

◇投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課あてにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただきます。

問 秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要)

✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



石巻地区

1月5日(月)
石巻魚市場

水産都市復興願い 景気よく初競り

昨年夏に完成した新水揚げ施設で初競りが行われました。競り前の初市式には、市や水産関係者約250人が出席し、船の安全操業と商売繁盛を祈願して威勢よく手締めを行いました。震災からの復旧工事が進む魚市場の昨年の水揚げ量は9万7000トン、売上額は168億円で震災前の8~9割に回復しました。今年は8月末に全施設が完成する予定で、水産都市石巻の飛躍が期待されます。

石巻地区

復興への気合い込めて 裸参り

1月7日(水)
立町等



正月飾りをたき上げる伝統行事「どんと祭」にあわせ、市民有志による裸参りが行われました。さらし姿や白装束の20代から50代の男女30人が、氷点下の凍てつく寒さの中、市の復興と皆さんの幸せを願って約1時間にわたり練り歩きました。鐘を鳴らしながら気合いを入れる参加者に、沿道の見物者たちから盛んな声援が送られていました。